

詩の死の詩

ば、ったり
倒れこんでもう二度と起き上がれないのだ
腹の下で赤子が漬れている
ぬかるみに顔を突っ込んだまま私は低い声で呟く
お前の顔を知っているぞ
赤子は漬れた目で母を見る

はあ？ そうですか

プーイカラッターを知っているか
プーイカラッターは神のごときあのサクソンの盟友で
サクソンほど運には恵まれなかつたが
それでも何度も勝利し社会的地位も名声も得て
それなりにいい人生をおくつたって言うよ
だからうーんなんだね
今そんなに落ち込むことはないって話、だよ

ドリームキャッチャー

きのう見た夢の窓に
鳥の手が下がっていた
手はくるくる、くるくると
とても愉快に回った
私は今あなたの後ろに立っている

必然のように

詩 3 露古ツ